

2020年オリンピック・パラリンピック東京大会に向けた  
科学技術の取組に関するタスクフォース 推進会議（第1回）  
議事概要

1. 日 時 2014年9月2日（火） 16:30～17:20
2. 場 所 合同庁舎8号館6階 623会議室
3. 出席者 別紙のとおり
4. 概 要

<開会>

冒頭、議長である倉持内閣府政策統括官（科学技術・イノベーション担当）から以下の挨拶があった。

- 「科学技術イノベーション総合戦略2014」を踏まえ、大会に向けた科学技術イノベーションの取組について9つのプロジェクト案を検討し、これらをもとに8月5日に「2020年オリンピック・パラリンピック東京大会に向けた科学技術の取組に関するタスクフォース」を開催し、外部有識者や元アスリートの方々から様々な意見等をいただいたところ。

これらの意見等も踏まえ、各プロジェクトの具体的な取組内容を検討頂き、実施計画づくりを進めてまいりたい。

本日はその情報共有とキックオフの場とし、各府省や東京都ほか関係機関が一丸となり、オールジャパンで大会に向けて世界にアピールできる科学技術イノベーションの成果を作り上げていく必要があることから、積極的なご協力をお願いしたい。

<議題>

（1）推進会議の運営について

推進会議の運営について資料1のとおり内閣府より説明し、関係府省及び東京都と申し合わせた。

（2）科学技術イノベーションの発信等に関する各府省の取組について

2020年オリンピック・パラリンピック東京大会（以下、「大会」という）に向けた科学技術イノベーションの取組について、各府省より取組内容を説明して情報を共有。各府省の取組内容は以下の通り。

#### ○警察庁

- ・大会で関係者や観客を安全・円滑に輸送することを目的として、優先信号制御を用いてバス等をコントロールする公共車両優先システム等の「次世代公共道路交通システム」の開発を推進。特に 700MHz 無線通信等を活用した新たな公共車両優先システムの検討等を進める。
- ・交通弱者等の移動支援システムの運用・普及を目指し、専用端末を用いて青信号の時間を長くする等の技術を高めていくべく、実態調査や研究委託等を進めていく。

#### ○総務省

- ・次世代 ITS の実現について、車、道路、歩行者をつなぐ高度な情報通信技術により安全運転支援システムの早期実用化を推進していく。
- ・フェーズドアレイレーダの研究開発について、最先端の電波技術を用いて短時間で詳細な積乱雲の 3 次元構造等を観測できるフェーズドアレイレーダを開発し、リアルタイムで観測する技術を開発していく。
- ・多言語音声翻訳技術について、世界の言語の壁をなくし、自由なコミュニケーションを図るため多言語音声翻訳の技術を開発しており、対応言語等を拡大し、病院等で社会実験を行うことで翻訳技術を高めている。大会では言葉の壁がない社会を世界に発信していきたい。
- ・安全・安心な環境適応型自律走行車いすの実現について、車いす等がネットワークに接続することで、地図や位置情報を参照しつつ障害物等を収集分析して、高齢者が安全に移動できる技術を確立させていく。
- ・来訪者が YouTube 等で大容量の情報をアップロードしてネットワークがパンクしないよう、現在の 10 倍の高速大容量の光伝送技術を開発していく。
- ・サイバーセキュリティについては外国と協力して進めていく。

#### ○外務省

- ・外交において科学技術は重要な地位を占めており、大会に向けた取組においても、在外公館等のアセットを通じて取組に協力していく。

#### ○文部科学省

- ・大会の成功だけでなく、その先を見据えて何をしていくかを省全体で検討。若手中心に健闘した「夢ビジョン 2020」等を踏まえ政策につなげてく方針。
- ・2020 年に向けて社会が直面する課題に対応する研究を加速していく上で、各府省の取組を応援していく。水素、ゲリラ豪雨の取組や、その他意義ある取組について参加していきたい。
- ・日本科学未来館等を中心として、大学・企業にも参加しネットワークを広げて科学

技術の取組を世界への発信していきたい。そのためには具体的なコンセプトについて懇談会等で検討中。

- ・外国の有識者に日本に関心を持ってもらい、優秀な研究者が日本に来てもらえるよう取組を進めていきたい。

#### ○厚生労働省

- ・BMIによる障害者自立支援機器の開発として、脊髄損傷等の障害について機械で補助をしていく取組を進める。重さの改良など使いやすさの向上や機能面の向上等に取り組んでいく。
- ・意思情報伝達サポートや突発的自然災害への対策に関連して、災害時の医療についてハンデの持った方々へのサポートなどを検討していく。
- ・感染症サーベイランスについて、継続的に行ってきた感染症対策について、大会の安全な実施に向けて引き続き取り組んでいきたい。

#### ○農林水産省

- ・日本の農林水産物・食文化によるおもてなしの提案として、和食や和の空間の演出等を通して日本の魅力を紹介していきたい。
- ・世界最高水準の品質である我が国の花を通して、日本で開催される大会であることを印象付けしていきたい。特に真夏に開催される大会で花の劣化も心配される中、夏場の花卉の安定生産や日持ち性等についてゲノム技術等を活用して改良していくほか、生産コストの削減等にも取り組んでいく。

#### ○経済産業省

- ・日本の科学技術イノベーションで大会を成功させるとともに、大会を日本の科学技術イノベーションを世界に向けて飛躍させるジャンプボードにしていくことがこの会議の目的と考える。
- ・1964年オリンピックにて、我が国企業の有する技術が初めて競技計測用に採用されたことを契機にその後の新市場の創出・獲得につながり、企業の成長につながったという事例がある。大会での採用という出口に向けて実用化手前の優れた技術の研究開発・実用化を進め、大会で実利用することにより、我が国企業が世界での地位を築いていくといった仕掛けを用意することが必要。
- ・実用化手前の技術は企業が有していることが多いものの、中堅・中小企業は売り込む力が乏しいことから、大会での採用・調達という出口を見据えつつ国が関与して中小企業等の有する技術シーズを広く集める仕掛けを設け、実利用可能な技術の開発を進めていくべき。

- ・タスクフォース及び今次設置されるワーキンググループにおいて、技術シーズ発掘から大会での実利用まで一貫通貫につながった仕掛けの構築を行うべき。実利用までのイメージを持って進めていくことが大事。経産省としても協力したい。
- ・経産省として研究を進めている電子ペーパー技術等に関して、ワーキンググループの活動へ貢献していきたい。

#### ○国土交通省

- ・大会に向けた取組について、省内に大臣をヘッドとした会議を設置。数値目標を掲げ、関係機関と協力の上で検討を進めていく。
- ・具体的には、大会会場や選手村へのアクセス道路の整備や空港発着枠の増加、管制機能の強化、空港へのアクセス改善、宿泊施設や案内標識の多言語対応、バリアフリー、地震・台風・ゲリラ豪雨等災害対応、交通機関のセキュリティ対策等の取組を進める。それらの多岐にわたる施策を関係機関と協力して進めていきたい。
- ・外国人や高齢者がストレスなく移動できるよう、WiFi等による高精度測位技術等を活用して多言語対策を進めていく。まずは東京都で実証実験を行う。
- ・大会が海拔の低い地域であり、集中豪雨等による浸水から観客や選手を守るため、XバンドMPレーダー等の次世代レーダーを活用し、都市域での高精度な浸水氾濫シミュレーションを行い、スマホ等を使って情報を国民や外国人に周知するような取組を進める。
- ・車車間、歩車間通信による高度運転支援システムなどの開発・普及による安全・快適な道路交通を目指す。

#### ○環境省

- ・大会を契機として最新の環境技術を大会や東京都に導入し、日本全体や世界の都市での活用につなげていきたい。
- ・前回大会と今回では環境も激変している。将来を見据えた対策について、各機関と相談して進めていきたい。
- ・具体的な方向性として、地域内の再生可能エネルギーの活用や水素社会の実現（燃料電池車の導入）、夏場開催に向けたヒートアイランド対策や緑化対策、大気問題（PM2.5等も含め）等の技術について、新興諸国の環境問題の解決も先導していける技術に関係機関と協力して進めていきたい。
- ・東京周辺の自然利用、日本が世界に誇る自然について、世界にアピールしていきたい。日本のごみ分別技術等を利用して大会周辺のゴミ対策に活かしていきたい。

## ○防衛省

- ・省内に大会に向けた特別行動委員会を設置し全省あげて大会に向けて取り組んでいるところ。
- ・前回大会ではブルーインパルスによる飛行展示をはじめとする様々な支援活動を行ったが、今回大会でも射撃競技会場の提供や警備などの安全対策、自衛官アスリートの育成強化について、しっかりと取り組むこととしている。
- ・科学技術イノベーションの発信という観点で申し上げれば、防衛省は安心安全を裏からサポートする役割のため、科学技術イノベーション関連事業を進めているというものはないが、各府省より紹介のあった取組技術に関連する技術（燃料電池の潜水艦への活用、テロ対策等に資する化学剤や生物剤の検知器、フェーズドアレイレーダ等）を従来から取り組んでいるので、協力、支援できることがあれば、他府省と連携しつつ、貢献したい。

## ○内閣官房 2020 年オリンピック・パラリンピック東京大会推進室

- ・本日各府省より説明の会った科学技術イノベーション関連、それ以外の者も含めて、推進室としても色々なルートで仕事を進めていきたいので、引き続きよろしく。

### (3) ワーキンググループの設置等について

内閣府より第1回タスクフォースでの意見等のまとめやワーキンググループの担当、今後の流れについて資料3、4、5で説明し、今後の取組に向けた意識を共有。

また、当面8つのワーキンググループで検討を進めていくこと、各ワーキンググループの検討結果についてタスクフォースに報告していくことを確認。

### <閉会>

閉会にあたり、副議長である東京都オリンピック・パラリンピック準備局次長（代理出席）から以下の挨拶があった。

- 大会に向けて各府省の心強い協力に感謝したい。東京都としても検討を進め、大会だけでなく大会後にも有形無形のレガシーを残していくこと、国民や都民の生活の質向上が図れることを意識して進めていきたい。

東京都としても、例えば水素社会の実現、多言語対応、総合的な交通対策、サイバーテロ等について協議会等を設置して検討を進めているところ。本日設置したワーキンググループにて国と東京都が連携して科学技術イノベーションの取組を世界に発信していけるよう進めてまいりたい。

以 上

**2020年オリンピック・パラリンピック東京大会に向けた  
科学技術・イノベーションの取組に関するタスクフォース  
推進会議（第1回）出席者一覧**

議長	内閣府政策統括官 （科学技術・イノベーション担当）	
副議長	東京都オリンピック・パラリンピック 準備局長	（代理） オリンピック・パラリンピック 準備局次長
内閣官房	二〇二〇年オリンピック・パラリンピック 東京大会推進室 室長代理（内閣審議官）	
内閣府（防災担当）	政策統括官（防災担当）	（代理） 政策統括官（防災担当）付参事官 （調査・企画担当）
警察庁	長官官房技術審議官	
総務省	大臣官房総括審議官	（代理） 情報通信国際戦略局技術政策課長
外務省	軍縮不拡散・科学部審議官	
文部科学省	大臣官房政策評価審議官	
厚生労働省	大臣官房技術総括審議官	
農林水産省	農林水産技術会議事務局長	
経済産業省	産業技術環境局長	
国土交通省	大臣官房技術総括審議官	
環境省	総合環境政策局長	
防衛省	大臣官房技術監	
東京都	政策企画局長	
	青少年・治安対策本部長	（代理） 青少年・治安対策本部治安対策 担当部長
	環境局長	
	警視庁オリンピック・パラリンピック 競技大会総合対策本部副本部長	（代理） オリンピック・パラリンピック 競技大会総合対策本部理事官